

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	黄 美蘭 【比較社会文化学専攻 平成22年度生】	要 旨
論文題目	アルバイト先における被差別感の原因帰属と間接的接触 —中国人日本語学校生と私費留学生の場合—	<p>本研究は中国人日本語学校生と私費留学生を対象に、アルバイト先における被差別感の原因帰属と日本人との間接的接触、また、被差別感の原因帰属と間接的接触の関連について日本語学校生と留学生の比較検討を行うことを目的とした。第1章から第3章までは、中国人の海外留学のプッシュ要因とプル要因、中国人留学生受入れの推移、異文化接触の際に生じる心理的文化的問題、被差別感の研究動向について概観した。第4章では偏見・差別に関わる諸理論について概観し研究課題を設定した。第5章では自由記述による質問紙を用い中国人日本語学校生がアルバイト先で認知する被差別感の事例とその原因帰属について質的分析を行った。中国人日本語学校生は日本人の店長・利用客・アルバイト同僚から被差別感を抱き、その原因を外国人・中国人の個人と集団、日本人の個人と集団、及び文化要因に帰属させる傾向が見られた。第6章と第7章ではアルバイト先で生じる被差別感事例から、典型的だと思われる2つのシナリオ場面を設定し、中国人日本語学校生と中国人留学生を対象に、被差別感の原因帰属と日本人との間接的接触、及び両者の関連について質問紙調査を行い因子分析、重回帰分析を行った結果、日本語学校生において中国人と日本人の相互関係が友好的でないことと認識し、日本人の友人が少なく日本語能力が低い人は、日本人への偏見が生まれアルバイト先の処遇に高い被差別感を抱くことが示された。一方、留学生においては日本人との相互関係を否定的に認識し年齢が高い人がアルバイト先における処遇に高い被差別感を抱く傾向が見られた。</p> <p>第8章では、アルバイト先における被差別感の原因帰属と日本人との間接的接触の因子構造、および両者の関連結果について、中国人日本語学校生と留学生の比較検討を行った。その結果、日本語学校生と留学生の共通点として、日本人との間接的接触を否定的に認識する場合、被差別感の原因を日本人側に帰属させ、肯定的に認識する場合、原因を自分自身に帰属させる傾向が見られた。相違点としては、日本語学校生は否定的な間接的接触や日本人の友人の人数、及び日本語能力の影響を受けており、留学生は肯定的な間接的接触と年齢の影響を受けていることが分かった。以上の実証研究の結果を踏まえ、第9章では総合的考察を行った。アルバイト先における中国人日本語学校生と留学生の被差別感の原因帰属と日本人との間接的接触について、中国人日本語学校生と留学生の特徴を踏まえ、コミュニティ心理学の理念に基づいた支援のあり方を概観した。</p>
審査委員	(主査) 教授 加賀美 常美代	
	教授 内藤 俊史	
	教授 佐々木 泰子	
	教授 岸本 美緒	
	助教 西川 朋美	